

名前	年組

矢島木材乾燥

学校の体育館向け

スギを使った床材開発

フローリング（床材）製造・販売の矢島木材乾燥（由利本荘市）は、学校の体育館向けにスギを使った床材を開発した。軟らかく衝撃に弱い針葉樹は床材に向かないとされてきたが、樹脂シートで硬度を高めた。今回の商品開発により県内産のスギの活用促進も期待される。

開発した床材は合板にスギの単板を重ね、その上にペットボトル素材の樹脂シートを貼っている。シートの厚さは0・5



単板にペットボトル素材の樹脂シートを貼る従業員

ミ。昨年11月からプロテクション・ネオ「スギ」の商品名で販売を始めた。

樹脂シートは他社から仕入れ、貼り付け作業は自社で行っている。シートを貼った床材の表面硬度を検証したところ、広葉樹のカバを使った従来の床材を上回った。温度や湿度の変化で膨張、収縮し、ひび割れが生じてしまうといった木材の弱点もカバーできる。

当初は一般的に床材に使用されることが多いカバやナラといった広葉樹の単板にシートを貼り、「プロテクション・ネオ」という名称で販売していた。同社では顧客の要望があれば単板に国産材を使用するが、多くは輸入材を使用している。世界的に木材価格が高騰する「ウッド

ショック」などで国産材の需要が高まり、スギなど県産材を活用できる商品をつくろうと新しい床材の開発を始めた。

単板の表面にわずかな凹凸があると、樹脂シートを接着剤で貼った際に白い線が出てしまうことが課題の一つだった。スギは軟らかい「夏目」と堅い「冬目」の差が顕著で堅さが均一ではないため、単板の表面を平らで滑らかにする技術確立するのに苦労したという。

佐藤仁明社長（63）は「針葉樹を使った床材は珍しいと思う。発注者の要望にもよるが、県外でも秋田県産の針葉樹を使った床材を広めていきたい」と話した。

- ※【硬度】金属など物質の硬さの程度。
- ※【膨張】熱などで物体の体積が増えること。
- ※【収縮】縮むこと。
- ※【高騰】価格が高く上がること。
- ※【需要】必要とする物事を求める気持ち。

① 新たに開発した床材の特徴を、次のようにまとめました。空欄にあてはまる言葉を、指定された字数でぬき出しましょう。

- ①：4字 が、広葉樹のカバを使った従来の床材を上回った。
- ②：5字 温度や湿度の変化で膨張、収縮し、ひび割れが生じてしまうという もカバーできた。

② スギを使った床材の開発が難しかったことについて説明している段落を探し、最初の5字を書きましょう。

③ 記事を読んで分かったことや考えたことをグループ内で発表しています。記事の内容を正しく読み取っていないのはだれですか。

- みおさん 「ペットボトル素材の樹脂シートを使い、学校の体育館向けに新しい床材を開発した会社が、秋田県内にあることを初めて知りました」
- たくみさん 「厚さ0.5ミリの樹脂シートを貼ることで木材の表面が硬くなるということでした。うすい樹脂シートなのにすごい効果だなあと思い、興味がわきました」
- りょうさん 「ウッドショックなどの影響から県産のスギを使った床材の開発を始めたということでしたが、その床材が今後広まっていけばいいなと思いました」
- のりこさん 「ペットボトルを加工した樹脂シートを開発し、軟らかく衝撃に弱い秋田県産の針葉樹まで床材に使用する技術におどろきました」